

平成 27 年 7 月 9 日

宇部ロータークラブ 誕生につて

7 月 10 日、明日が宇部ロータークラブ 誕生日になりますので創立までの話をしたいと思います。今から 80 年前 1935 年(昭和 10 年)頃、当時のガバナ村田省蔵氏(大阪 RC)そして神戸商高の田崎慎治先生から宇部にもロータークラブ をつくったらどうか将来国際的に発展しようとするなら是非ロータークラブ を設立するのが良いのではとかなり強力な誘いがありました。

この話は、後の宇部ロータークラブ 初の幹事、国吉省三氏が両先生と深い関係があったようです。当時、国吉省三氏は、創立間もない宇部窒素工業会社の常務をしていました。そして、その努力によってクラブ を結成させようとする意図があったとも思われます。

国吉省三氏は俵田社長にそのことを通じて話をしましたが当時まだまだロータークラブ についての認識も充分でないし果たして相当数の会員が集まるのかもおぼつかなかったとあり、その為に一応、時期が早いということで折角の好意をお断りしたとあります。

宇部の地域にローターの話があったのはこれが最初でした。ただ、この頃の日本の状況は本格的に戦争の時代に入っていくローターにも厳しい時代でありました。

1936 年(昭和 11 年) 2・26 事件・1937 年(昭和 12 年) 日中戦争 1940 年(昭和 15 年)・1905 年に日本最初に創立した、東京ロータークラブ が解散、続いて他のロータークラブ も次々と解散していきましましたが、その中で、名前を変えて(火曜クラブ・水曜クラブ)として続けるクラブ もありました。

1941 年(昭和 16 年)12 月 8 日太平洋戦争 1945 年(昭和 20 年) 8 月 15 日終戦、これらを考えれば当時、宇部ロータークラブ の見送りは当然であったのかも知れません。

1955 年(昭和 30 年)頃になって山口ロータークラブ の菅 博太郎・副会長(山口県信用保証協会専務理事)と福岡ロータークラブ の松田昌平氏(松田建設事務所)が、たびたび宇部に来られて宇部興産の幹部や新光産業の古谷博美氏、小野田セメントの森 清治氏、宇部ローターの安近勲治氏、及び国吉省三氏と話し合いが重ねられて発足の段取りが進められました。

翌年 1956 年(昭和 31 年)の 7 月 10 日に宇部商工会議所に於いて、俵田 明会長及び国吉省三幹事で宇部ロータークラブ の創立総会が開催され 37 名のチャーターメンバーに 2 名の名誉会員を加え 39 名で発足しました。会則によりクラブ の地域を「宇部市とその周辺」として、小野田市が含まれていました。例会日はその時から毎週木曜日、入会金は 1 万円、会費は 2 万円と決定されました。

ところで、このころの 1 万円の価値はどれくらいだったのでしょうか?この年 1956 年(昭和 31 年)版の「経済白書」には、「もはや戦後ではない」の文句が登場し、日本経済の戦後の復興期は終わったとの判断が示され、技術革新時代がやってきた。

- ・日ソが国交を回復、日本の国連加盟も実現した。
- ・戦後 10 年、高度成長時代のまっただ中です。

当時、たばこピ-ス 10 本 40 円・新聞購読月 330 円宇部ニッポ-ウは?・はがき 5 円ア-ン 12 円・映画 100 円・国鉄初乗り 10 円、これを考えると今は 10 倍?サラリーマンの初任給は 1 万円前後、今は 18 万前後だと所得は 18 倍?これに対し当時、車は 1000cc クラスで 68 万円程度だった。換算するとかなり高い・・・10 倍なら 680 万 18 倍なら 1 千万以上。

宇部クラブ は山口、下関、徳山に次いで県下第 4 番目のクラブ でした。当時、日本では 4 地区で 192 のロータークラブ があり、会員数は 9707 名でした。

俵田明初代会長は、創立総会に於いて次の 4 つの方針を会員に示して、自らも実践されまし

た。

第一 ロ-列-精神の徹底に努めること。

第二 健康を通じて強健なロ-列-精神を発揮せよ。

第三 社会奉仕の実践を通じて、明朗な郷土社会の建設に貢献せよ。

第四 ロ-列-アの誇りを4つのテストの上に見出せ。

この第三項については(創立20周年 中安閑一翁の祝辞より)

「わが郷土は先人の努力によって、かつては精神都市だと言われており、この美風の再建に努めることは当然であるが、ロ-列-精神を社会奉仕の理想に向かって遺憾なく発揮し、その実践に邁進しよう」

これが、当クラブ独特の活動方針となったものであります。なお、RIへの加入承認は10月24日でした。設立総会から3ヶ月もRI加入遅れた理由は、・宇部興産の産業各部門から入会している会員がいずれも興産の役員である事産業各部門が独立したものとは認められなかった。・興産の一事業から多数の会員が異なった職業分類を与えられているということ。・もう1つは石炭鉱業の中での小分類が多数あって全体の分類の偏りバランスを欠いているという点であった。

その為、当時の黒川がバナーを通じて、宇部の特殊な事情を再三説明され、そのことを理解され承認に至りました。

明日をもって宇部ロ-列-クラブは59歳となります、そして来年の7月10日には創立60周年式典を迎えます。

俵田明初代会長の4つの方針を道標に「光り輝く明日に」向かって邁進しましょう。

宇部ロ-列-クラブ誕生についてお話をしました。